

技能五輪国際大会の招致の意義

厚生労働省人材開発統括官付参事官（能力評価担当） 釜石 英雄

日本政府は、昨年8月にロシア連邦のカザンで開催されたワールドスキルズインターナショナル（WSI）の総会に向けて、2023年の技能五輪国際大会を愛知県で開催すべく招致活動に取り組んだ。総会での投票の結果は、残念ながらフランス・リヨンでの開催に決定してしまったが、平成29年9月に厚生労働省として招致に立候補することを決定した際には国際大会の招致の意義を次のとおり整理していた。

(1) 日本をレベルアップー技能水準の向上

日本で開催される国際大会に参加する選手の技能水準の向上はもとより、参加できなかった選手も世界最高水準の技能を直接見ることにより、自らの技能を高める意欲が高まる。また、参加企業等も代表権獲得に向けた意欲が高まり、技能訓練が強化されて技能水準が高まり、ひいては企業の競争力も高まることが期待される。

(2) 日本を発信する

日本の産業を支える技術・技能を幅広く紹介する、伝統に根ざしたオリジナルな技能が今も有効であることを発信する、日本の技能者の育成の歴史を紹介する、日本の文化や伝統技能の魅力を紹介する、効率的でコンパクトな大会を計画し、日本の運営力の高さを示す等日本を積極的に発信し、日本への評価を確立する。

(3) 日本を盛り上げるー技能尊重気運の醸成、国際化の促進、国際イベントの連続開催

日本で開催される国際大会で若者が活躍する姿に国民が注目することにより、技能尊重の気運が醸成される。また、日本を訪れる参加者や関係者と地元を中心とする人々との交流機会を積極的に設けることで日本社会の国際化に貢献する。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2023年愛知技能五輪国際大会、2025年大阪万国博覧会（当時招致中、平成30年招致決定）の3つの大会の有機的な連携を図り、一連のイベントで、我が国の国際的ステータスを確立するとともに、我が国社会の活力を向上させる。

この3つの意義の重要性は何ら変わるものではないと考えているが、投票から7ヶ月が過ぎようとしている中、技能五輪国際大会の予選会をも兼ねている技能五輪全国大会の更なる活性化、技能五輪国際大会における日本代表選手の成績向上対策の充実等の課題も指摘されているところである。

厚生労働省としては、次の機会も見据え、各界の有識者の意見を伺いつつ、改めて全国大会や国際大会を開催する意義やその活性化を検討するとともに、技能五輪国際大会出場選手の強化、工夫を凝らした積極的な周知広報による技能尊重気運の醸成等に引き続き取り組んでいくこととしている。